

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝中。財源＝中。●道路・水路課

番号	施策名	施策の対象	施策の意図	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
2-3	河川・水路などの維持管理	市民	河川・水路などが機能し、良好な利水・治水が行われている。	成果	河川・水路などの整備状況について満足な市民の割合(%)	72.4	72.1	73.2	73.6	76.7	77.7	78.2	▲	74.3	▲	横ばい	前年度からは3.9ポイント減少したが、ここ数年、微小ながらも増加してきており横ばいである。 これは、昨年度7月の九州北部豪雨を受け各地区で浸水被害等が発生した事により、河川・水路等の整備への関心がより一層高まったものと考えられる。 更に、二川校区では不満が30ポイント程となっているのが、今後県営での集落基盤整備事業の実施を控えており、事業の進捗により満足度は改善してくると考えられる。	市内の河川・水路等の整備が必要な箇所は多数あり、その中から緊急性や事業効果を考慮し、補助事業等を活用しながら事業の推進を図る必要がある。 そのためには、地元の協力体制が必要不可欠である。 また、小規模な整備箇所等について市民との連携を取りながら整備促進を図る。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業の意図	区分	基本事業の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	河川・水路などの整備推進と維持管理	河川 農業用水路 その他の水路 ため池	河川や水路などが適切に維持管理されることで、その機能が保全されている。	成果	河川・水路などの機能整備要望への対応率(%)	44.2	48.1	43.7	48.5	54.5	58.0	60.6	50.0	63.9	60.0	目標達成	要望件数はここ数年横ばいである。なかでも、羽犬塚、松原校区が特に多く、都市化による既設水路の機能不足が考えられる。 平成24年度の要望件数は、例年に比べると20~30件程度多くなっており、昨年度7月の九州北部豪雨を受け各地区で浸水被害等が発生した事により、古川校区の要望件数が多くなっており、河川・水路等の整備への関心がより一層高まったものと考えられる。	補助事業や県営事業を活用し、市内の河川・水路の整備を推進していく。 今後、県営での集落基盤整備事業にて、水路整備の推進を図って行く。 しかしながら、受益者分担金の問題があるため地元の協力を得ながらの整備推進がかかせない。
					(参考) 累積の対応件数	23	38	52	82	120	163	206	-	266	-			
					(参考) 累積の要望件数	52	79	119	169	220	281	340	-	416	-			
					(参考) 単年度の対応件数	15	15	14	30	38	43	43	-	60	-			
					(参考) 単年度の要望数	23	27	40	50	51	61	59	-	76	-			
成果	浸水の不安がない市民の割合(%)	51.1	52.7	51.7	51.5	49.8	53.2	50.8	▲	38.8	▲	不調	昨年度より12.0ポイント減少したのは、昨年度7月の九州北部豪雨により各地区で浸水被害等が発生した事によるものと考えられる。	平成24年度に作成した市街地等の浸水被害を軽減するための排水状況調査を基に詳細排水計画を行い、今後排水整備進捗を図っていく。 また、地元要望による水路・河川整備も、各種補助事業を活用しながら整備推進を図っていく。				